

# 収入向上・女性の自立

## 耕運機の次はトレーラーで収入向上を目指す

PIHSを通じて、10年ほど継続支援してきたモロの村の地域医療改善事業を、近い将来は自主財源により続けられることを目指した収入向上事業が2年目を迎えました。

対象の2地区のうち、ティナガカンでは、ヤシの葉を編んで屋根材を作り共同出荷する事業が軌道にのって、昨年度は年間4万円近い収益を上げることができました。

一方、水田が広がるバロンギス地区では、田植え前に使う耕運機貸出で、昨年1年で15,000円の収益をあげ、村の母子保健研修等に充当できました。しかし、耕運機を稲作農家を使うのは年1-2回です。今年は耕運機の出番を増やすため、トレーラーを購入して連結することにしました。



耕運機に取り付けたトレーラー

まだ、収入向上成果の報告は届いていませんが、たとえ十分な収益の増加は見込めなくても、馬やバイクを持たない住民たちが病人や農産物を運べるトレーラーを共有する意味は大きいといえます。

(WE21 ジャパンみどり支援事業)

## ナバルタビ織研修の成果物が届きました

このところ帯地として人気が出てきたナバルタビ織の後継者育成研修が始まって約半年、糸作りから始まり、染色、織の工程を終えた研修生の作品が届きました。織り始めと終わりで幅に数センチの差があったり、模様のモチーフが不揃いだったりしますが手触りはまさにナバルタビ織です。わずかでも研修生の収入になればと2mほどの習作を半額で引き取りました。

ビラーンのナバルタビ織は男性のベストや半ズボンなど地元の需要に応じて細々と高齢者が受け継いできたもので、日本でのバッグや小物の需要に応える現地の縫製技術者はいません。

この秋のイベントでは、帯地やタペストリーとして利用いただけるナバルタビ織生地のほか、ボランティアの皆さんによるブックカバー等の簡単な縫製品をブースに並べました。

研修で育成された若い世代のナバルタビ織の販路拡大のため、ミシンで簡単な縫製小物を作って下さる方募集しています。

## キアミの野菜畑をキナムの市場と結ぶ夢のつり橋

前号P1の「橋があれば…」の記事を読まれた賛助会員のお一人から、思いがけず協力の申し出をいただいて長年の夢がかなうことになりました。すでに資材が運ばれ、キナム地区側から工事が始まっています。



川岸から十分距離をとって鋼鉄とコンクリートの橋脚を設置するため橋の長さは当初の55mから61mに延長しました。(キナム側の橋脚埋設作業)

今年度事業計画になかったこのつり橋建設については、9月末開催の理事会により、HANDSの5分野のうち、「農村開発事業」の一つとして実施することで承認されました。山奥の先住民族の村で生産される市場価値の高い高原野菜やハンディクラフトを、住民の収入向上につながる上で最大の障害が、市場へのアクセスの悪さです。キアミの場合、CMIP指導で進められているキュウリ等の野菜市場が広がると期待されます。

もちろんその上、CMIPのキアミ分校4年を終えた子どもたちが、5年生から村の中心部にある公立キナム小に通う上でも、つり橋があれば雨期も安心です。就学支援事業でもあります。

財政難で住民の長年の要望に応えられなかったキナムの村長からは、CMIPを通じて、感謝と完成後の維持管理への約束の言葉をいただきました。(山崎)